

## 献呈の辞

キリスト教と文化研究センター長 宮谷宣史

本誌『キリスト教と文化研究』第6号を、永年にわたる関西学院におけるお働きを記念し、また深く感謝して、前島宗甫先生に献呈致します。

前島先生は本誌掲載の経歴からもわかるように、本学神学部を卒業されてから、日本基督教団教会の牧師として30年余り働かれました。この間、教会での宣教と牧会の業に携わりながら日本におけるキリスト教の諸教派の協力機関、また世界の日本における組織体である「日本基督教協議会(NCC)」の総幹事に選出され9年間在職し、日本のみならず、アジアと世界の教会のために積極的に活動され、高く評価されました。さらに世界の平和運動への関心をいだと同時に、世界教会協議会の正義・平和・環境の委員として、また世界宗教者平和会議の評議員として多くの企画に参加され、指導的な役割を果たされました。

このような国際的な活躍のなかでも、前島先生の顕著な功績として特に重要で、またそれ故に記念さるべきは、1986年以来長い年月にわたる日本ネグロスキャンパーン委員会代表としての身を挺しての働きです。この活動により前島先生はアジア諸国で注目され、高く評価され、多くの協力者を得、そしてアジアで、また日本で特に貧しいひとびとの平和と人権、環境と経済問題にかかわる運動を展開すると同時に、そのための具体的な組織を作りあげました。この意味で前島先生は困難な問題のただ中で、それと取り組み続け、個人的にも組織人としても、理論の面でも実践の面でも、常識を越えたような苦労と努力をしながら、目覚ましい働きをされてきました。多くのひとが先生を慕い、評価し、尊敬する所以です。

ところで前島先生は一般の活動家にありがちな精悍な人物ではなくて、どん

な場合にも実に穏かな紳士です。きちんとした身だしなみ、遠慮深い身のこなし、静かな表情、奥深い澄んだ瞳、ひとの話に謙虚に聞き入る態度、いつも何かを追い求めているような前向きな姿勢の方です。ですからいつお会いしても暖かい印象を受け、しっとりとした関わりができ、落ちついた会話を交わすことができるので、何時接しても楽しく、また心が和みました。このような人柄の先生はその篤い信仰と深い学識をもって、またさまざまな企画と活動を通して、関西学院のキリスト教主義のために、その実践と内実化のために、宗教センター主事として、また学院の宗教総主事として奉仕され、同時に教授として研究と教育に携わり、人々の期待に応え、大きな貢献をされました。その永年のご苦勞といってお働きに対して心から敬意を表し、また深甚の感謝を申し上げたいと思います。

私個人としては、同じ「キリスト教と文化研究センター」の責任を担う者として多くの面でこの4年間一緒に働き、またご協力を頂きました。たとえば、当センターが取り組んでいた課題、民族と宗教、キリスト教とイスラーム、アメリカ帝国主義と戦争に関する研究と公開講演会などの計画と実施のさいに、そして特に公開フォーラムのために適切な講師を探し、招き、講演を依頼するさいに、前島先生の広い人脈にどれほど助けられたか知れません。先生の多岐にわたる国内外での会議や実践活動を通して築かれた多くの人々との関わりの経験がいつも大変役にたちました。先生の存在とご協力がなければ、当研究センターの活動がよい成果をあげることは出来なかったでしょう。この点でも先生に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

それゆえ当研究センターのスタッフと研究員一同は先生の働きに大きなご恩を感じています。前島先生はその誠実な人柄とよい働きの故に学生からも大変慕われていました。特にフィールドワークに学生を伴い、身体をはった熱心な指導により、よい学びと交わりがなされていました。また父母のためのキリスト教講座を永年にもわたり支援し、これに参加される学内外の多くのひとに熱烈な前島ファンが生まれていました。

多くの仕事に真面目に取り組まれたゆえか、先生は最後は少々健康を害され

ましたが、それでもその苦しさを表には一切出さずに、いつも穏やかで、信仰者として生かされ、働けることに対する感謝と喜びを湛えておられました。その姿をみて私は幾度か深い感銘を受けました。

1月11日に行われた前島先生の最終講義は「キリスト教とアジアと私」と題され、特に先生とアジアとの関わり、その中での先生の思想と行動について詳しく話されました。それを通して私は先生の働きの質の良さと先生がいかにスケールの大きな人物であるかを改めて知らされました。たとえば、アジアで平和と人権の問題に取り組むなかで、5つの国から目をつけられ、入国を拒否された経験を聞かされました。それはともかく、前島先生は最近では開学でほとんど出会うことのない「奉仕のための練達者」であったと思います。このような立派な先生が関西学院を去っていかれるのは淋しい限りです。そこで、第2、第3の前島宗甫が開学からでて、日本とアジアのために、神と社会のために、世界と多くの人間のために、平和と人権のために、働くように期待しています。先生の蒔かれた種はきっと芽をだすに違いありません。

前島先生、長い間ご苦勞様でした。われわれ一同、心から先生のお働きに感謝し、この論集を作り、献呈いたします。どうか今後も主の愛に守られ、恵みに支えられ過ごされますように。神の平安と導きがいつも先生と共にありますように。

2005年2月20日